

.....

.....

.....

1

10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）

○当事者 A	年齢[21]歳、 勤続年数[3]年、 現場経験年数[3] 年、 階級[消防士]、 同様の活動 []、 任務 [隊員]
○当事者 B	年齢[26]歳、 勤続年数[8]年、 現場経験年数[8]年、 階級[消防副士長]、 同様の活動 []、 任務 [隊員]
○当事者 C	年齢[40]歳、 勤続年数[18]年、 現場経験年数[14]年、 階級[消防士長]、 同様の活動 []、 任務 [機関員]
その他 (当事者が 4 人以上の場合)	他隊の隊員 (不明)

11. 事例発生経過。

	誰(何)が	なにをした	その他・備考など
経過 1	隊員 B	三連はしごを活用し、トタン屋根上へ進入し、ホース延長活動中	
経過 2	隊員 A	ホース延長を補助	
経過 3	他隊の隊員	(放水準備ができていると思いこみ、)「放水始め」を機関員に報告	
経過 4	機関員	放水を始める	
経過 5	隊員 A	「放水始め」の音が聞こえたため隊員 B に報告	活動場所と機関員の場所が近かったため。
経過 6	隊員 B	慌てて、機関員に放水を止めるよう指示	
経過 7	機関員	放水を停止	
経過 8			
経過 9			
経過 10			

【その事例発生時の状況について】

.....

○事故の場合 : 事故が起きたのはどうしてだと思えるか？

ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

集中力、注意力があった。周囲の視界が確保できていた。他隊(員)との連携活動がうまくいった。

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	はい
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・ 1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	いいえ
・ 活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・ 体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	いいえ
・活動に対する経験が不足していた。	いいえ

d. 心身の不調があった

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用 방법이誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

・障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	はい
・暑かった（寒かった）。	はい
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	はい
・足元の強度が不足していた。	はい

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった（適切な指示を与えられなかった）。

・活動指示が得られなかった。（無線が通じない等。）	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	はい
・指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。）	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	はい
・隊員が不足していた。	はい

○その他

l. その他の理由があった。

はい：機関員が、他隊の隊員からの「放水はじめ」伝令を鵜呑みにして受けてしまった。
--

トタン屋根上部でホース延長活動中におけるヒヤリハット

